

関数とグラフを使ったレポート作成

前回の課題で合計を計算する作業を行った。(教科書 pp.86, 96)

今回は各種の関数や計算式を利用したレポートの作成を行う。

商品名	前年実績	前年度	前年度	その他	合計
野菜物産	19000	13000	12000	7500	30500
これまた茶	18000	17000	18000	3000	38000
練乳コーラ	21000	6000	8100	5000	18100
つがつら茶	10000	8400	9000	2000	29400
練乳コーラ	20000	3000	2000	1300	6300
合計	89000	48400	46100	18800	113300
平均	17000	9680	9220	3760	22660

商品名	前年実績	前年度	前年度	その他	合計
野菜物産	22%	27%	28%	40%	29%
これまた茶	20%	35%	33%	16%	31%
練乳コーラ	24%	12%	18%	27%	17%
つがつら茶	11%	16%	20%	11%	18%
練乳コーラ	23%	6%	4%	7%	6%
合計	-	43%	41%	17%	100%

グラフ分析の例 (資料)

右グラフは全て基礎実習時に回答を回収したコンピュータ利用に関するアンケート結果から得たものである。全体として 2100 ほどの回答を得たうち、一回生中心の経済学部の 2 クラス、同じく外国語学部の 1 クラスを取り上げて比較した。

コンピュータの所有率については、経済学部のクラスは全体に対しておおそ平均的な値をとる。対して外国語学部のクラスは所有率が低く、特に自分専用の機材を持っている率が相対的に低い。

ところが利用率となると逆転に近い状況となる。経済学部のクラスは先のケースと同様に、全体に対してほぼ同じ分布を示すが、外国語学部のクラスは「頻繁に使っている」と回答した学生について見ると、全体や経済学部を大きく上回っている。そして「まったく使ったことが無い」層は、経済学部のクラスは全体に対して低く、外国語学部のクラスにおいては高い値を示す。

極端な推測をすると、経済学部のクラスではパソコンは所有しているがそれほど使わず、対して外国語学部のクラスは全体的に利用率は高くないが、使い込む学生はそれなりに高い頻度で使っているということを示している。

また、高校までの授業での利用率は学部ごとに大きな差は見られず、おおむね同じ傾向を示す。(まったく使っていない層が非常に厚い)つまり高校までの何らかの履修傾向などとは関係がないことを示す。

